

| 会 議 録 | | | | |
|--|----------------|---|--------|----------------------|
| 平成27年度第2回 社会教育委員の会議 | 日 時 | 平成27年5月15日（金） 午前9時30分～11時30分 | 場 所 | 小金井市第二庁舎 8階801会議室 |
| 事務局 | 小金井市教育委員会生涯学習課 | | | |
| 出 席 者 | 委 員 | 中村議長、原嶋副議長 樹、本多、石田、小山田、清水 各委員 | | |
| | その他 | | | |
| | 事務局 | 西田生涯学習部長、石原生涯学習課長、上石図書館長、前島公民館長 小堀生涯学習係長、伊東生涯学習係主事 | | |
| 傍聴の可否 | ◎可 ・ 一部不可 ・ 不可 | 傍聴者数 | 0人 | |
| 傍聴不可・一部不可の場合の理由 | | | | |
| 次 第 | | | | |
| 1 協議事項 | | | | |
| (1) 第3次小金井市生涯学習推進計画について | | | | |
| (2) 社会教育関係団体への補助金交付について | | | | |
| (3) 地域文庫補助金交付について | | | | |
| (4) その他 | | | | |
| 2 報告事項 | | | | |
| (1) 第20回ウオーキングフェスタ東京ツデーマーチについて | | | | |
| (2) 小金井チャレンジデー2015について | | | | |
| (3) 平成27年度都市社連協の日程について | | | | |
| (4) その他 | | | | |
| <p>(原嶋副議長)</p> <p>皆さん、おはようございます。</p> <p>定刻を過ぎましたので、これから第2回の「社会教育委員の会議」を始めさせていただきます。</p> <p>まず、事務局のほうから配付資料の御確認をお願いいたします。</p> | | | | |

(石原生涯学習課長)

1枚目が会議の次第でございます。

2枚目のつづりが、間もなく26年度が締まるところでございますが、第2次計画の25年度の実施実績でございます。26年度については間もなく各課のほうに依頼をかけ、第2次計画期間中の評価もあわせて実施内容について、第3次の計画をつくる中で資料としてお示ししていきたいと考えております。

続いてのものが1枚の紙で、第三次生涯学習計画策定のスケジュールでございます。

その次は、各委員からいただきました正副議長のほうで御提示いただいた柱に対する御意見的なメモであったり、委員が感じた意見を倉持委員と石田委員からお寄せいただいております。

続いて、社会教育関係団体の交付申請の一覧と地域文庫補助金の交付内訳、続いて、地域文庫の交付要綱と都市社連協の日程表がつきまして、あとはチラシ類を委員のほうから御提供いただいているものを机上に配付させていただきました。

ここでスケジュールをつくっていただきました今回から株式会社ぎょうせいさんが第3次計画策定のコンサルティング企業として入札で決定されましたので、コンサルティング会社の御紹介をさせていただきたいと思っております。

株式会社ぎょうせいの須藤様です。

(須藤氏)

ぎょうせいの須藤と申します。よろしくお願ひいたします。

(事務局)

事務局からは以上です。

1 協議事項

(1) 第3次小金井市生涯学習推進計画について

(原嶋副議長)

では、進めてよろしいですか。

(「はい」の声あり)

(原嶋副議長)

では、議長さんがいらっしゃらないですけれども、時間がもったいないので進めさせていただきます。

今日の大きなメインは、学習推進計画ということですよ。

(石原生涯学習課長)

関連する資料は、第2次の庁内評価とスケジュールの資料が協議事項1に関連する資料かなと思います。

(原嶋副議長)

柱立てはどこでしたか。

(石原生涯学習課長)

倉持委員のメモと石田委員のメモになります。

(原嶋副議長)

先週の土曜日に石原課長と私ども議長、副議長で検討しました。私自身もこのことに関してそんなに知見がないので、今日の話をも第1ラウンド、大きな柱。これがやはりこれからいろいろな項目立てをつくる時に大事なことであり、これからまたキャッチフレーズに戻ってくるということも十分考えられますので、ここを踏み台にして、十分な審議をいただいて、小金井らしさというものを倉持さんにも書いていただいたので、そこを構築していければと思っております。

今回、「学びをサポートする環境づくり」「学びを通じた人づくり」「学びを生かしたまちづくり」「学び合いのネットワークづくり」、これはメール等で配信されているのではないかと考えております。

キャッチフレーズにしる何にしる、やはりわかりやすく親しみやすい、余り長くないもの、そして、ある程度連続性が必要なのではないかと考えております。これは当然柱立てにも反映してこなくてはならないと考えております。それでは、柱立てをどうつくったのか。結構時間は使ったのですけれども、こんなふうに考えています。「学びをサポートする環境づくり」というのは、ある意味、社会教育委員の課題なのかなと思います。これはサポートする。我々社会教育委員もそうですけれども、行政の機関も環境づくりが求められるのではないかと考えております。学習機会の充実あるいは学習の場の整備。整備というのは行政関係ですかね。学習情報の提供、そういったものをいわゆる基礎づくり、基本的なことを基礎づくりして、今度は学びを通して人づくり。せっかく学習したのですから、それを活用する。人づくりというのですから、その辺の指導者も育成していかなければいけない。あるいは発掘、活用が求められるのではないかと考えております。

それがだんだん大きく膨らんでくると、まち。言葉として環境づくり、人づくり、まちづくりというような、最後の語尾にもこだわって見たのですけれども、「学びを生かしたまちづくり」。これは青少年の健全育成だとか、言ってみれば、協働、協力といったものを生かしていく必要があるのではないかと考えて、基本的なことからだんだん連続性を考えながらつくりたいと思っておりました。

最終的に皆様から、倉持委員さんからのお話にあるように、よくネットワーク、協

働とあります。これを一つの柱にしてみました。議長さんがおっしゃっている、よく前任の方々からも、生涯学習センターを盛られたらどうか。それは私どもも何らかの形で反映していきたいということで、生涯学習センターなども頭に入れて「学び合いのネットワークづくり」。これは多分、多くの市町村のこういった柱立ての中に入られている。文字は別としまして、こういったような表現を使っているところが多い。それに近い文字表現をしているのではないかと考えています。

あとは議長のほうからつけ加えていただきたいと思います。

これは前提に「いつでも、どこでも、だれでも」ということはキャッチフレーズとして考えていないので、「いつでも、どこでも、だれでも」できるような、これは倉持先生は古いとおっしゃっていましたので、これは踏み台にさせていただいて、遠慮なくつくっていただければと思っていますけれども、行政などでもこれをかなり使用されているところもありますし、そのものをキャッチフレーズではなくて、いわゆる柱立てに使っているところもあります。これらをもとに柱立てをつくっていくということです。

「だれでも」というのは、いわゆる社会的な、こういう言葉を使っているのかね。弱者、障がいの方とか、あるいはお年寄りの方。身体的にいろいろな問題がある方。心身ですね。そういったこともひっくるめて、「だれでも」もひっくるめてこれを前提とした。キャッチフレーズとはちょっと違うのではないかなということで、この辺はちょっと曖昧にしているところでもあります。

あと、つけ加えるところはありますか。

(中村議長)

今、原嶋副議長のほうから柱立てをたたき台として御提示させていただいた経過説明がありましたけれども、特に補足する点はありませんが、お二人の委員のほうから、倉持委員と石田委員のほうから御意見をいただいていますので、それに基づいた形でお答えさせていただこうかなと思います。

まず、倉持委員のほうからは、資料がございませぬけれども、前提の「いつでも、どこでも、だれでも」という、これについてはキャッチフレーズとは別という理解でよろしいでしょうか。これはまさにキャッチフレーズではありませんということで、柱立てを説明する上での前提条件ということです。つまり、「いつでも、どこでも、だれでも」という前提に基づいて、この前提を条件のもとに柱立てがあるということです。

4つの柱立ての関係性はどうなるのでしょうかという御指摘ですけれども、これについては並列化あるいは展開過程かという御質問がありました。これは並列ということでもいいのです。どちらかという、これは並列ということです。

(原嶋副議長)

どちらかといったら、連続性。

(中村議長)

並列か展開過程かという、これは並列と考えていいですね。

(石原生涯学習課長)

前回の会議のときにたたき台でもいいので、何かまずつくらないと進まないというところをつくったのが主なので、これをどう広げていくのか。それとも、並行的にやっていくのかというところまでのところは、この下に何をぶら下げていくのかということとあわせて考えていくのかなと思っています。

(中村議長)

そうですね。私も先ほど申しましたように、あくまでもこれがもう決まったということではありませんので、この場で皆さんとよく討議いただいて、しっかりしたものをつくる上でのたたき台ですので、私の意見としては先ほど申しましたように並列と考えていたのですが、我々正副議長と石原課長でこの前の土曜日に合議させていただいたところでは、石原課長がおっしゃるように、並列あるいは展開過程かというところまでには詰めてはいないというのが現状です。

倉持委員からの御質問については大体これではよろしいのではないかと思います。

石田委員のほうから御指摘いただいている件です。「この柱は、何が言いたくて、表面に出したいのか、伝わってきません」「経過の説明がほしいと思います」ということで、経過説明については先ほど原嶋副議長から御説明いただいたわけなので、それで御理解いただけましたか。

(石田委員)

わかりました。ただ、まだ余り理解が十分ではありません。すみません。

(中村議長)

別にこれは決まったものではない、たたき台ということでお考えいただければ。柱立てについて皆さんのほうでもっといい柱立てがあれば、それはどんどん御提案いただいて、よりよいものをつくっていくのが大事なことですから。

(原嶋副議長)

私どもも送るときにあえて説明とかは入れていません。3人で話している中でそれぞれ頭の中でどう考えているところを私の中で書き込むところまで、そこまでの整理はできなかったので、とりあえず、文言から皆さんがどういう印象を受けるかということも含めて送りました。石田委員の御指摘のとおりかなと思って、この言葉から何を受けるかというのは、これにどう説明をつけるかということによって、それはどのような形の意味をつけられるのかなという感じは持っております。

(中村議長)

お願いします。

(清水委員)

実は前回の会議の見地に立って、今回どのようなということで考えていたのですが、会議録が送られてきていたものですから、会議録を見てびっくりしたのですが、せいぜい2、3枚で印刷できるかと思って印刷を始めたら、幾ら紙を追加しても終わらないということで、40枚に近い紙なのですね。正直言って、一般企業で議事録をこのような形で出したら、これは議事録ではないと言われかねないですね。記録としては決して否定する気はないので、よろしいかと思うのですが、議会の答弁とかそういうものと違って、どういうことについてどういう表現で言っても、正直余り意味がないと思うのです。意味がないというか、本質をまとめるというのが議事録であって、そういう意味では、倉持先生のメモは大体、全体をカバーしてまとめてくれている。しかも、項目に分類してわかりやすくなっているなという感じがしました。今後とも、議事録をつくるということであれば、会議録は会議録として今の形で残すにしても、要点をまとめた議事録が欲しいと思いますね。従来の状態だと、前回の議論にのっとって前へ進むという感じではなくて、またその場その場でいろいろな話を出すということになりかねないと私は感じました。

もう一つは、議論が発散する理由は、議題がはっきりしていないせいだと思うのです。何について討議するということがはっきりしていないので、皆様方の思っていることをその場その場で言うてくる。それを議事録としてまとめようとするのはまた大変なのですね。実際、発言内容は40ページぐらいあるわけですから、それをどうまとめるか。倉持先生はよくここまでまとめたと思うぐらいにまとまっている。基本的には、前もって議題を出して、それについて議論しますということで進めれば、議事録もまとめやすいはずですし、何が結論的に出たのか、あるいは結論までいなくてもどのような意見が出たかまとめやすいはずかなと思ひまして、今後の進め方というのは、そういう意味では、協議事項で生涯学習推進計画についてと一つで書かれるような事案の提出ではなくて、その中に何について議論するという細目を出していただきたい。そうしないと、何を事前に考えて用意して、あるいは自分としてどのような意見を言おうかという考えをまとめにくいですね。

というようなことで、私が2人の方から出た質問を見させていただいて、ともかく倉持先生のメモをベースに、今後はどういう視点から整理していく、どこに焦点を当てて整理していくか。それを順序立てて最終的な推進計画にまで持っていくという、そこをもう少しはっきりさせていただきたいと思ひました。

(中村議長)

まず、清水委員からの御指摘をまとめますと、2つの大きなポイントがあったと思うのです。議事録についてなのですが、石原課長のほうから、議事録は、今、

全文を。

(石原生涯学習課長)

委員会の中で決めていただいて、早く全文をそのまま生のものを出すのか、それとも、生のものは出さなくていいから、全文の公開もやめて、要点のものだけを会議録とするのかという、基本は、うちの市は議会も含めて、全て一字一句、どうだったのかを生で出すというのがスタンスなので、それにのっとって我々事務方としてはやっているのですけれども、要点のもので出してはいけないという決まりはないので、それをもって社会教育委員の会議録とすると全体で合意していただければ、それに沿ったものを出します。

(中村議長)

今、石原課長がおっしゃったように、2つのやり方、全文を記載する方法と、要点筆記、両方があるわけですが、それについては我々社会教育委員の会議の中で、皆さんの合意の上で決定しますよというお話。

これについては今まで特に論議されることもなく、従来からの手法、つまり、全文筆記ということですとずっと流れてきたわけですね。

この件について各委員のほうから御意見、御要望はございますか。

(清水委員)

両方出すというわけにはいかないのですか。要点と。

(石原生涯学習課長)

そうすると、どちらかを、速報性というか、早く出せということをしておいてちょっと。我々は発言の当事者ではないので、その中で要点としてこれでいいかどうかというところは、庁内の中でもそれぞれの立場で目を通した上で皆様方にこういう要点でしたというものをお示しすると、今回、それで出したときに、もう全文は諦めたということで、全文に返ることがなければ別にいいのかなとは思っていますが。

(中村議長)

社会教育の例えば図書館さんとか、公民館さんの会議がありますね。それはやはり全文筆記に近い会議録になるのですか。

(上石図書館長)

全文筆記です。

(前島公民館長)

公民館のほうも同じような形になっています。

(石田委員)

私は、最初に入ったときに30ページ、40ページなので、驚いたのです。けれども、こういう市の公の会議というものは、やはり発言に責任を持つということから

考えると、全文筆記というものがどこかに確実に保存されていなければいけないのではないかなと思ったので、自分の中で要点はまとめますが、書類として残すということと、公として、出席費用をいただいているということから考えますと、自分の発言の責任というものを考えますので、公に残っていくものとしての解釈なので、全文をプリントアウトしなければ、USBか何かにとっておけばいいのであって、するかしないかは個人のあれでよろしいのではないのでしょうか。そういう気がしてずっときています。

(中村議長)

今、石田委員からお話がありましたけれども、要点筆記であっても発言者が誰かというのは書くことができるわけですね。できないですか。

(石原生涯学習課長)

できますけれども、そうすると、この人しか発言しなかったとか、要点でないことしか発言しなかった人がいるみたいなようにも出てしまうので、要点のときは余り委員名を出さないで、みんなこれについて否定しなかったのだから、同じ意見を複数の人が言ったのと同様だなというような形で載せていくのがいいのではないかと思います。

(中村議長)

お願いします。

(小山田委員)

私も正式に残すものとしては、やはり全文記録というものが必要なのかなと思うのですが、確かに今回ですと、倉持委員がまとめてくださったような、前回のダイジェストではないのですけれども、やはりそれがあると振り返りやすく、この間こういう話をして、今回はここから話すということがわかりやすいことはわかりやすいので、ダイジェスト版みたいなものも、速効性ではなくてもあるとうれしいと思うのですが、ただ、きょうこれで話をして時間を費やすのももったいないかと。キャッチフレーズとか、こちらのほうの話をしたほうが時間的によいのではと思います。

(中村議長)

そうですね。同感です。これについては余り時間はかけたくないというのは私も同感です。

(清水委員)

話が見えにくいのは、さっき言った議題をしっかりとまとめて提示しないのが私は原因だと思うのです。だから、個人がいろいろな自分の思いで話ししてしまって、全文筆記を読んでも、どういう話が焦点で動いているかが余り見えない。要は、欠席した方々が前回どのような議論をされたのだろうと。話を聞いている人は自分の中で組み立てますから話の要旨でつかむのですけれども、紙で出されると、この中で何を議論

していたのかが正直わからない。欠席した人にとってはほとんど役に立たないと思いますので、そういう意味でも、大事なのは、きょうは何を議論するのですという議題を整理してもらうのがまず先かなと。それがあれば、全文記録でもまだ内容を把握しやすくなるのではないかという気がします。

(中村議長)

わかりました。では、ちょっと事務局の御協力をいただきながらということになると思うのですが、例えばこの式次第を拝見していますと、協議事項(1)ということで「第3次小金井市生涯学習推進計画について」と大まかな感じの記載になっていますけれども、この辺をもうちょっとブレイクダウンしてということは可能ですか。

(石原生涯学習課長)

会議の最後の時間とかに、まとめの時間をつくっていただいて、それまでに議論が終わって、最後の5分間とかを、次はこれとまとめていただいて次の会議に臨むということ。

(中村議長)

そうですね。そのまとめを落とし込んだ書面を次回の式次第の協議事項のところに細かく、何をどう次回は議論するかを落とし込んでいただいて、次回の会議までにそれを欠席委員ももちろん含めて、全委員に配信していただくということで清水委員、いかがでしょうか。

(清水委員)

結構です。

(中村議長)

ということで、事務局のほうには御負担をかけますけれども、その辺を御協力いただけますか。

今の清水委員からの御指摘についてはそういう形で、まとめの時間を会議の最後のほうで設定して、まとめて、それを書面にしたものを次回の式次第に反映させていただくということで、より細かな協議事項の内容を落とし込むことにさせていただきます。

では、今日の柱立てのところにもた戻りますけれども、まだ全員の委員の方々から御意見はいただけていませんので、この柱立てについてこの前、正副議長、それから石原課長を交えてたたき台をつくらせていただいた件について、御質問、御意見あるいは改善のそれぞれの御意見があれば承りたいと思いますが、いかがでしょうか。

御発言いただけていない樹委員と本多委員のほうから御意見があれば。いかがでしょうか。

(樹委員)

2次に比べて表現が大変優しくなったかなという部分と、2次の基本目標にあった

ものと、内容的にはそんなに大きな差はないのかなと思うのですが、皆さんが言われているように、この下にどういう説明がついていくのかというところでフォローしていけないのではないかと思います。

私たちが倉持先生のメモを見ても、前回の会議のときに皆さんが発言した内容や言葉というものを生かしていけるような柱立てになっているのかなというようにも思うので、これをどうやってその下に具体性をつけていくかというところにポイントがあるのではないかと思います。

ただ、2次と違って、例えば2次だと、子どもとか、家庭教育とかというものが表面に出ていて、その柱立てを見ただけでイメージできるものがすごくあるのですが、逆に今回のこのままでいくと、サポートする環境づくりと言われても、では、そこはどういうものに展開していくのだろうかというものがすぐに見えていかない。なので、もっと見えた表現にしたほうがいいのか、こうやってイメージを一つつくって、その下に具体的なものを下げていったほうがいいのか。そこもどちらにするのかというものが、私もどちらがいいのかというのは判断はできないのですが、その辺で今回、柱立てをこだわってつくってくださったのだと思うのです。「学び」というところから「づくり」に行くという、皆さんの耳に入りやすい、覚えやすいというイメージをつくるという意味では、こだわった柱立てなのかなと私はすごく思ったのですが、その先の具体性をどうするかというところはちょっと検討課題かなと思っています。

(中村議長)

ありがとうございました。

今、樹委員から御指摘のあった詳細、例えば倉持委員のメモの中ほどにあります<基本方針のアイデアや入れ込みたい内容>に例えば「小金井らしさ、地域性」あるいは「学校・家庭・地域の連携」「ライフステージ」云々とありますね。このあたりを具体的に柱立てで御提示させていただいた「学びをサポートする環境づくり」「学びを通じた人づくり」「学びを生かしたまちづくり」「学び合いのネットワークづくり」。これらの中に分けて落とし込んでいくということを考えているということです。

ですから、「小金井らしさ、地域性」を4つの中のどれかに盛り込んでいくと考えていますし、あと一つ、これは議論する必要があると思うのですが、清水委員のほうから御提案いただいたライフステージで幼児期、高齢期の世代にわたるライフステージの時系列的に書いていくという御提案があった。この辺をどこに入れ込むかという、その辺は議論する必要があると思うのですが、いずれにせよ<基本方針のアイデアや入れ込みたい内容>を柱立ての4つに仕分けして入れ込んでいくというイメージを考えているということです。

それでは、本多委員、お願いします。

(本多委員)

私は、最初に見たときは、何をこの後展開して、内容を入れていくのかなと思っていました。まちづくり、人づくり、環境づくり、ネットワークづくりというものは基本の柱に全部入っているように思います。生涯、学習するということで生涯学習は学びという言葉にしても良いと思いました。そこに生涯の学びを入れたのがここに来てわかったのです。

(中村議長)

ありがとうございました。

柱立てももちろん大事なのですが、その柱立てのそれぞれの4つの項目に入れ込む内容こそ大事だということがあります。例えばその4つの柱立ての中に入れ込むかどうかという問題がありますけれども、コミュニティスクールとかをうたったり、あるいは生涯学習支援センターの構想を盛り込んだりとかということはこの後の段階で考えているわけです。そういうように理解をいただければと思います

逆に柱立てがこの4つでいいのか。網羅し切れていない点があれば、皆さんのほうから御指摘いただきたいと思います。果たしてこの4つでいいのかという問題も含めて、御意見をいただければと思います。

(本多委員)

やはり心というものを、人とのつながりの心、そのような、ちょっとソフトな部分。今、心が病んだり、心がすさんでいる方が多いので、多分、そういうことにつながる文化になっているかなという気もするのです。

(中村議長)

例えば柱立てで追加するというのであれば、何か文言とかありますか。

(本多委員)

環境づくりのところでも、心のこもった環境づくりとか。そこに心も入るのだなということになる。

(中村議長)

今、本多委員のほうから御指摘がありました柱立ての中に、例えば心というところを入れ込む必要があるのではないかという御意見ですけれども、いかがですか。

お願いします。

(小山田委員)

心は、それぞれの全部に入っていないといけないことだと、環境、人、まちづくり、ネットワークづくりもと思ひまして、なので、別立てというよりは、それを逆にキャッチフレーズ、基本理念の最初に立てるところに心の何かを。どちらにしても、全部にかかってくることだと思うので、キャッチフレーズの中にそういうものを入れて、その下にこの柱立てがあるというような構造にしたらどうなるのかと思いました。

(本多委員)

私もそう思います。

(中村議長)

今、小山田委員からお話がありましたが、今の段階ではキャッチフレーズもまだ手をつけていませんけれども、キャッチフレーズの中に心を盛り込むのもいいのではないかと。いい御提案だと思います。後でまた論議はしますけれども、その方向性でよろしいでしょうか。

清水委員、お願いします。

(清水委員)

「学び」がずっと頭に来て、「生涯学習」という「学習」という言葉、それから「学び」というものは、私はどうしても座学というイメージに結びついて、社会教育とか、そういうものになじむ言葉かなと実は前から気になっていました。体験するというほうが社会教育にはむしろふさわしい。だから、訓練だとか、練習だとか、体験だとか、そういう「学ぶ」と違った学ぶ行動がここにあるのです。どうしても学ぶというと、どこかに座って講義を聞いて、教えてもらう。それを学びましょうという感じがどうしてもして、社会教育はそうではないのではないかと思います。感動体験とか、感動するところが大事で、それを何かいい言葉であらわせないかなというのはいちよっとなら前から実は気になっていました。

(中村議長)

確かに例えば今、清水委員がおっしゃるような、「学び」というものをどういうように定義づけるかということもあろうかと思うのです。

(清水委員)

なかなかいい言葉がないので、私もすぐ思いつかないところもあって。

(本多委員)

第5ブロックの府中市、担当のとき、「学び返し」という発表がありました。あのときも「学び」の言葉を清水委員と同じように私は感じたのです。府中の方がそれを発言されたときに、学習もあり、伝えていく、伝統のものを後輩に託し伝えていく。学び返しというところ。

(中村議長)

お願いします。

(原嶋副議長)

これは社会教育計画なのですね。我々が求めているのは生涯学習で、今、ちょうどいいことをというか、きちんと言ってくれたのは、生涯学習は、自分は本当にさっき言ったようにまだ浅はかなのですけれども、社会教育も包含し、学校教育もあるし、

地域教育。そのことを包含することが生涯学習なので、社会教育とは何ぞやと余り突っ込まないでね。だけれども、学校教育も含めたものが生涯学習というのが私もあるので、学ぶことも入ってくるのかなと。これは調布市とちょっと違うところなのではないか。調布市はあくまでも社会教育とぱっと出していますけれども、小金井市の場合はもうちょっと包含した大きな、3つの教育をというような考え方でいますけれどもね。

(中村議長)

というようなことも含めて学ぶということがいいと思います。

(原嶋副議長)

例えばの話ですけれども、学びというものをどう定義づけるかということ、この補足で、文言で、例えば座学、机、椅子に座ってだけの学びを指すのではなく、広く体験等も含めた形での学びという意味だということを付記するのも一つの方法だとは思いますが。言葉の解釈の問題です。

(清水委員)

「学び」に丸でもつけておいて、こういう意味ですと。

(原嶋副議長)

補足でね。そういう方法もあろうかと思います。誤解が生じないために。

(中村議長)

お願いします。

(樹委員)

「学び」に関しては、私も6年目に入りまして、生涯学習の学びというものがイメージで捉えられるようになってきているのかなと自分でも思って、私は違和感は余りなかったのですが、恐らく一般市民の方が読んだら、清水委員のようなイメージを持たれる方もいるのかなと思うと、やはり学びに対しての考え方というものを今、言われたように付記するのは大事な事かなと思います。

あと、柱立ての4つの中で、学校教育というものは、生涯学習の中で一番大事な部分だと思うのですが、どこの柱にうまくマッチするのかなというのを、言ったら全部に入ってくるという感じでもあるのかなと思うのですが、2次ときには最初に子どもの健全育成と家庭教育への支援ということで、学校、家庭、地域を含めた、生涯学習で一番最初にスポットが当たる子どもたちに対しての柱立てというものがきちんできていたわけなので、今回、3次でこういう柱立てをしようと思ったときに、学校教育というものはどこに入っていくのかな、どこにマッチするのかなというのをちょっと考えているのですが、自分自身でここだなというものが思いついてこないのですが、柱立てをつくってきた過程でどのように考えられたのか

教えていただけると助かります。

(中村議長)

それについては、まだそこまで議論できなかったのでしたね。

(石原生涯学習課長)

そうですね。あと、学校教育に関するような地域と学校の連携みたいなお話も施策単位では出てきたのですが、それはこの柱立ての下にどうぶら下げていくかというような話だったかなと思います。学校教育については、同じ時期に「明日の小金井教育プラン」についても今年度中の改定が予定されておりまして、そこが学校教育に特化した形の計画を同じ5年間の計画スパンをつくっていくので、その情報もまだ具体的な柱立てとかができている段階までいっていないのですけれども、そういうものも横目で見ながら進めていく必要があるかなと思っています。

(原嶋副議長)

私は、「学びをサポートする環境づくり」に学校教育も入るのかなと考えています。生涯のそれぞれの各期によって、どなたかがおっしゃったように、ライフステージがあるわけですから、当然、それぞれに応じた条件をつくっていく。サポートしていくということでは、体系的にやっているのは学校教育かなと思っています。

きょうの論議の怖さというのは自分でも感じたのですが、皆さんすごくお勉強されているから、キャッチフレーズがあって、例えば柱立てがあって、当然この項目は何だ、この項目と関連するものは何なのかと頭の中で来ていると思うのです。きょう提案する弱さというのは、今の御提示のように、学校教育がどこに入るのか。これらが包含されて入っていないと、どうも前に進まないのかなという感じ。そこまで求められていなかったのですけれども、やはり理念とか、今までのものが頭に入っている方々が多いわけですから、この論議は、ここまで提案しないと先に進まないのかなという怖さがあります。これだけやっていてどうなのか。今の学校教育がどこに入るのか。そのような感じを思っています。そこまでやるのかがきょうの課題なのか、特化して4つだけを進めてしまっているのか。きょうは取っかかりなので、そういう意見も出してもいいのかなと思っています。

(中村議長)

今、原嶋副議長がおっしゃったのは、16ページの分けです。これに基づいて今、お話がありました。これは私の個人的な意見なのです。別にこの柱立てに何らこだわる必要はないと思うのです。

(本多委員)

そうすると、第2次の4つの柱の中で何が一番大事かというものを分類してみたらどうですか。言葉の流れはよくできているので、そのところでもう一つ何か見えてこないでしょうか。

(中村議長)

具体的にどういうことですか。

(本多委員)

第2次で入っている4つの柱が、一つ一つを別個に考えると4つの柱が新しいグループの柱に持っていくという形をとるのだと、参考にするのは大きいですね。

(中村議長)

2次のこれをもとに考えるかどうかということですか。

(本多委員)

それを抜きに考えるとしたら、やはり入れなければいけないものがここにあるわけですね。この細いほうに。

(中村議長)

「施策の体系」ということですね。

(本多委員)

これは絶対入れるわけですね。

(中村議長)

そうですね。

(小山田委員)

倉持委員からいただいている意見のところに、最後のほうに『学びを通じた人づくりが学習機会の提供、学びを活かしたまちづくりが人材育成や団体支援、ネットワークづくりが情報など、環境作りが図書館や公民館などの施設、』ということでしょうか」と「類推すると」とありますけれども、私のイメージとしてもそういう分かれ方というか、その中にそれぞれにライフステージをまぜ込んでしまうというか、今、子どもは子どもだけで育たない。結局、大人の方たちが一緒に交流した中で、いろいろなまちづくりにしても、人づくり、環境づくりもということであるので、その中にもライフステージが入っていて、学習機会という中にも、子育て中の親子とかに向けた学習の機会もあれば、青少年もあれば、高齢者もあればみたいな、そういうように入ってくるのではないのかなと私のイメージなのですが、思っています、2次のここにある「施策の体系」のこのとおりではなく、もっと碎いた感じで、それぞれに逆に分類の仕方を考え直して入れていくということなのではないかなというイメージを持っているのですが、それは私のイメージなのですが、いかがでしょうか。

(樹委員)

結局、現場でやっている施策は今のところ変わらないわけではないですか。私たちが、2次のときの表を関係ないというか、このとおりに行かなくてもいいのですよと幾ら言っても、現場の施策は変わっていないわけで、それをどう分類していくのか。やっていることをどう市民の皆さんにお伝えしていくのか。また、必要な計画と必要

ではない計画を整理していくのが3次をつくっていく大事なところかなと思うのですけれども、今の段階で私たちがその現場でやっているさまざまな行事をやめなさいと言うことはできないわけですね。なので、現場の施策としてのそれを、私は前回もお話をしたのですけれども、教育委員会管轄のものにするのか、それとも市でやっている全体のもは生涯学習として認めていくのかという、そこが決まらないと、何をどの柱に入れていくのかということも最終的には決まてこないと思うのです。それがはっきりしていかない段階で、柱は立てたけれども、そこに何を置いていこうかと今の段階で考えるのであれば、2次でつくったものを無視していくわけにはいかない。現場はその施策をやっているからという、その部分でせいぜいこっちにあった柱、この柱についていた施策をこちらの柱にしましょうというようなことしかできないのではないかと私は思うのですけれども、いかがでしょうか。

(原嶋副議長)

社会教育の中で、調布市の場合、社会教育ではないのですけれども、生涯学習なのですが、範囲と位置づけというものをやっています。今、おっしゃったことだと思います。範囲というのは、いわゆる小金井の基本構想だとか、小金井市の教育委員会が上位にある。これは位置づけになる。範囲はここまでくくっていいのかわからないのですけれども、今、おっしゃったように社会スポーツ課、社会教育分野を所管とするようなもの、それと、私たちが求めた、ひょっとしたらどこかの関連するような部署があるのかもしれない。それはプラスアルファしてということで、そういうようにここで思い切ってくくってはまずいですか。

(石原生涯学習課長)

しあわせプランの中でも、うちが結びついている課は限定されているので、そういう大きな施策の中でこの課とこの課とこの課のグループみたいな関連性があるところに絞っていくというのは一つあるかなと思います。

(原嶋副議長)

そういう範囲の中で、この柱立てから項目をくっつけていく。あるいは逆に項目の中から柱立てをつくっていくというやり方。ところが、これになると環境施策から何からいっぱいあるので、配慮がなくなってくるのかなという感じがしています。その辺のくくりの仕方、この前も同じことを言っていましたね。皆さんも多分同じことを言ったかもしれませんね。

(中村議長)

これは私の個人的な意見なのですけれども、ここのタイトルが「第2次小金井市生涯学習推進計画」で、ここが「第2次小金井市教育委員会生涯学習推進計画」ではないという点があると思うのです。そういう意味からすると、広範にわたるかもしれないのですけれども、市の教育委員会以外のところで、社会教育に携わっているところ

の実際の事業があると思うのです。それはやはり盛り込む必要があるとは思いますが、第2次を見ていると、これは社会教育と全く関係ないようなところがはっきり言って散見されました。

そういう意味では、市の全体の生涯学習推進計画ということから考えると、教育委員会所管の事業にこだわらないということだと思ふのです。ただし、事業仕分けではないですけれども、第2次で提示されたところの事業仕分けがやはり必要ではないかなと思います。それで絞り込んだ上で、大半の委員の方から御提案が出ていますけれども、この冊子をもっとスリムにするとか、絞り込んだということを尊重しなければならないということはあるのではないかと思います。

(石原生涯学習課長)

その辺の資料で、第2次の進捗状況調査で、基本目標が掲げられていて、具体的な施策とか、主管課がどこの課かということは申しませんが、基本目標から連想するのが難しいようなものについては落としていく候補になっていくのかなと。

(原嶋副議長)

確認したいのは、これはあくまでも社会教育の範疇なので、社会教育の所管を中心としたもので関連するもので、また、その他の部署に関連するものでつくっていく。生涯学習というのはいくらも広いわけだから、今、石原課長さんがおっしゃったものの範疇の中で落とし込むというのは、我々の見地の中でどんどん削っていくものは削っていくということではないのですか。

(石田委員)

2月に提出した私の書類はこの中のものを全部分類したのです。各課が何をやっているか、ページ何枚かになるのですが、これをやっているの、落とし込むとすると、結構やりやすくなると思うのですが、何でここに入るのかというものが結構、私の中でもあります。

(中村議長)

ですから、政治ではないですけれども、事業仕分けですね。それは必要だと思うのです。これは避けて通れないところだと思います。ただ、今の議論から大分拡散していっていますので、今回の中でまず決めるところは、柱立ては、この4つの柱をたたき台として挙げさせていただきましたけれども、これに基づいて進めていかどうかというところをまず合意ができるかというところにある。これに異議がある方はいらっしゃいますか。あるいは建設的な御提案をお持ちの方はいらっしゃいますか。ちょっともとに戻りますけれども、これでいかどうかだけまず決めようと思います。

(清水委員)

質問ですが、4つの柱立てというのは、例えば第2次で言う14ページに書いてある、基本目標が4つ掲げている、そこに置きかえるというイメージで捉えていいので

すか。

(中村議長)

そういうイメージです。ですから、14ページないしは16ページに出ています基本目標。これも4つですけれども、それを置きかえて、新たな「学びをサポートする環境づくり」「学びを通じた人づくり」「学びを生かしたまちづくり」「学び合いのネットワークづくり」。

(石田委員)

私はいいと思います。

(中村議長)

ほかの委員の方から御意見はありますか。

(樹委員)

一度ここを仮定として、その下のさまざまな施策を組み込んでいく中で、もう一度、基本目標の変更が必要であれば検討するという形で先に進んでみるのはいいのではないかなと思います。

(中村議長)

わかりました。問題があればまた原点に立ち戻って柱立てを考えるという方向ということですね。

(本多委員)

私も「施策の体系」を、まず、分類をする形で見えてくると思うのです。

(中村議長)

よろしいですか。

小山田委員はどうですか。

(小山田委員)

私も4つでいいと思うのですが、ちょっと細かいのですが、漢字が一つ気になって、「学びを生かした」が「生きる」になっているのですけれども、「活用」のほうがいいのではないかと思います。

(中村議長)

では、これは「活動」の「活」変えるということ。

(原嶋副議長)

賛成ですね。

(中村議長)

私も賛成です。

(小山田委員)

それで結構でございます。賛成です。

(中村議長)

石田委員はよろしいですか。

(石田委員)

はい。

(中村議長)

とりあえず、合意事項ということで、出席委員全員からは、柱立ては御提案させていただいたたたき台として「学びをサポートする環境づくり」「学びを通じた人づくり」「学びを活かしたまちづくり」「学び合いのネットワークづくり」ということですね。

では、この前提というところをどうするかですね。柱立てを理解する上で「いつでも、どこでも、だれでも」。これはよく小金井市の教育委員会が出てくる言葉なのですが、それでも、ここを前提条件として考えていきたいと思うのですが、それについて御意見はありますでしょうか。

倉持委員からいただいていたのですね。

もちろん前提については、先ほど確認しましたけれども、キャッチフレーズとは別という理解になります。

倉持委員のコメントによりますと、『『いつでも、どこでも、だれでも』は90年代によく使われたフレーズで、生涯学習の範囲が広いという観念的なことを示したいのであればいいと思います。一方で、現代性やメッセージ性はやや乏しいかもしれません。これまでの話し合いだと『学んだことを地域に活かす』『連携』『ネットワーク』などが代案となる可能性があるように思います』という御指摘です。この辺は皆さん、いかがでしょうか。

(中村議長)

このまま前提をカットしてしまう手もなくはないですね。

(原嶋副議長)

確かに曖昧な位置にあることは事実ですね。キャッチフレーズがなくて「いつでも、どこでも、だれでも」。これはひょっとしたら、「いつでも、どこでも、だれでも」は場合によっては基本の柱になっているところもあるのですね。そうすると、中間にこれを置くというのはなぜ、例えば小金井市が必要なのかどうかということを考えると、申しわけないけれども、そうしたらこの項目立てや、この中に「いつでも、どこでも、だれでも」みたいなものを入れ込んでもいいのかな。項目の中に。要は見た人が中間的に位置することがよくわからないのではないかな。キャッチフレーズではない、そしてまた柱ではない。この真ん中は何なのか。その真ん中は90年代のものであると言われてる。

(清水委員)

質問ですが、前提をつくったら、どこかに書くということですね。

(中村議長)

そうですね。別にこれは隠してもいいという考え方も、これは私の考えですけども、あるということはある。

(本多委員)

キャッチフレーズについては多分、最後に見えてくるものになるのではないかと私は思うのです。今、これだけ討議しただけでもいろいろな言葉が出ていますね。なので、90年代もよし、それを一応置いておく形にしながら、こういうお話し合いの中で多分いいものが出てくるのではないかと。キャッチフレーズだけ決めると時間が大変かなと。

(中村議長)

では、どうでしょうか。前提のところは今、考えないで、とりあえず、柱立てが今、決まったということで、これから作業が大分しやすいと思うのです。その次の順序としては、個々のアイデアとか、入れ込みたい内容、その仕分けというところがまた大事な点になってくると思います。第2次においては、例えば16ページのところに「施策の体系」ということがありまして「子育て家庭への支援」「幼児期の教育の充実」といったところを柱立てに、どこにぶら下げるかというところだと思うのですけれども、それについては先ほど石田委員のほうからもう既につくっていただいたものがあるということですから、ちょっと見せていただけますか。

(石田委員)

2月に多分。

(中村議長)

皆さんに配られていますね。

これは縦割りの。

(石田委員)

縦割りをずっとただ項目別に分けただけなのですけれども、その項目がここに入るか。仕分けをするのには便利だと思うのです。

(中村議長)

皆さんにも配られている資料だと思うのですが、ことしの2月に石田委員のほうから具体的な個々の施策を分けていただいています。どういう分け方かといいますと、例えば第4章1節「子どもの健全育成と家庭教育への支援」の「子育て家庭への支援」の中で、子育て支援課、行政の縦割りでどうそれぞれの事業が分かれているかということで、子育て支援課については、情報の提供、子ども家庭支援センターでエンジェル教室、かるがも教室、父親の体験学習講座、両親学級講座が育児課、あと、児童青少年課では学童保育所、乳幼児のつどい、幼児グループ活動、おはなし会、新春たこあげ大会等、そういうような形で、行政の各課でどういう社会教育関連の事業を持っておられるかを細かく分けて、非常にこれは労作ですね。時間をかけてやってい

ただいて。

(石田委員)

わけがわからなかったのです。

(中村議長)

公民館では、例えばけやき学級をやっているとか、本当に事細かに分けていただいていますね。

(石田委員)

それぞれの項目をそれぞれの関連している課別に分けただけです。

(清水委員)

以前、私が触れたライフステージの関連で、施策等を見直したらどうかということとの絡みで、4つの柱と、ライフステージを表にしてまとめて、さて、この四角の中に何が入ってくるのかなというのを想定してみると、結構いろいろ難しいテーマがあり、多分、枠によっては、例えば「学びを活かしたまちづくり」で幼児期が該当するテーマがあるのかどうかということ、全然なくなってしまうのかもしれないですね。また、あるいはこういうテーマがあるじゃないかというのが出てくるかもしれない。そうやって該当しそうな表が埋まるのかどうか。そこで、あとは具体的な施策がそのどこに入っていくのか。振り分けてみると、小金井市として足りない部分も出てくるでしょうし、ライフステージというのはちょっと頭にあって、生涯学習ということからの考えはあるのですけれども、それと今の柱を結びつけるとどうなるのかなと。最終的な計画をまとめるに当たって本当に有効なのかどうか。

実は、第2次の15ページに書いてあるライフステージも、書いてはあるけれども、余りほかに関連性がないなという気が私はしたのです。ライフステージとその柱を組み合わせるのは非常に難しいテーマなのだろうけれども、真面目に生涯学習ということを考えるのだったら、大事な手法ではないかという。その辺を皆さんはどう考えるか。ちょっと御意見があれば。

なぜそういうことを言ったかということ、2次の計画では、割と子どもの健全育成というような、ある程度限定したテーマが4つ並んでいるのですね。そうすると、施策のほうへ具体的な項目を展開しやすい。ところが、今回の柱立ては非常に広いテーマをカバーした言葉ですね。特に限定がないですね。子どもあるいは市民文化とか、そういう限定がつかないだけ、非常に広い柱になっているわけですね。そうすると、その柱と施策との組み合わせがなかなかつくりづらいのかなというのも気にはなるのですけれども、皆さんどうでしょうか。

(本多委員)

今の世代を越えた、ゼロ歳から亡くなる年齢まで。そうすると、世代を越えたという言葉をもたどこかに入れることを考える。膨らませるといふか、これを一応基本に

しておいて、学びを通して世代を越える人づくりとか。

(清水委員)

私が気にしたのは、柱立てが縦に4つ、生涯学習における目標の部分が4つに分かれると思うのです。それで、各ライフステージとの間で表をつくったとしたら、それぞれの表の中に埋まるものがあるのかどうかという、そういうことです。

(中村議長)

ここに具体的な施策が入ってくるかということですね。

(清水委員)

そこが具体的施策と結びついてくるのかなと。

(中村議長)

清水委員がおっしゃるのは、15ページの色が入っているところに具体的な施策が入ってくるのではないかと。

お願いします。

(石田委員)

一応、各施策の中にライフステージの対象として目的を持っているのですね。だから、4つの柱の中にそれぞれ入るのではないのでしょうか。

(清水委員)

そうなのです。そうすると、マトリックスになって、そのマトリックスを埋めるものは何か。多分、埋まらない部分もあると思うのです。実際にやっている、やっていないではなくてふさわしくない。幼児期でまちづくりといっても関係ないでしょうということも出てくるでしょうし、そういう意味で、今回の柱立ては非常に幅広い柱立てになっているなど感じますから、後の施策と結びつける結びつけ方が。具体的にやると難しい。

(本多委員)

やはり施策のところの分類をきちとした形、石田委員のアイデアをいただきながら、見直しながら、もう一度、4つの柱も、この形も現在、決めておいた形のまま進んでいかなければいけないので、そうすると、4つの柱のことばかりが残ってしまうのですね。

(小山田委員)

やはりどこかでマトリックスを一回つくってみるしかないのかなと。それで、そこに入らないものがあつたら、もう一つ柱立てが必要かなとか、足りないならば本当に足りないのか、どこかにそういった何かがないか探してみるとか、そこはなしでいいかとか、事業仕分けも必要ということがあるので、とりあえず、2次の中から先に仕分けをするのか、とりあえず、一回分けてみるのか。一度つくってみるしかないのかなと。

(本多委員)

今日、ここの4つの柱も一応これが確定ではないですから。そしてまた一歩進まないと、またもとに戻ってしまう。

(中村議長)

お願いします。

(原嶋副議長)

そもそもこのページが必要なのかどうかという乱暴な言い方ですが。当たり前前の生涯学習における、一生涯でいこうという、丁寧にやる。あえて入れるとしたら、一番下の「生涯学習における目標」なのかなど。これは、例えば学校5日制への対応とか、これは随分古い話で、削れるものは削れるのではないか。「生涯学習における課題」で「家庭の育児、教育力の向上」。これは生涯学習における目標にも入っているわけですね。子どもの健やかな成長のため。この事細かなものを全部入れるとしたら項目がパンクしてしまうのではないかと思いますので、精選しながら、おっしゃるとおり、乳幼児から高齢期のものの大事な項目をその中に入れていくということなのかな。15を入れ切れないし、要らないものもある。

ちらっと御本人の話を聞きたかったのですが、今日はいらっしゃらないから、これはもう要らないのではないかという話も何かのときに、先生に伺ったことがあるのですけれども、それは皆さんの御意見が全てなので、これは1人の意見ではないですから。

基本的には、生涯学習における目標あたりをうまく4つの柱に入らないものがあるということになってくるのではないかと思います。例えば「特性」などを入れられませんのでね。「人間形成の基礎を築く時期」は省略してしまっていていいと思いますね。

(中村議長)

第2次の15ページ、「ライフステージと生涯学習」の表自体はつくるという前提で考えていいのでしょうか。そこの議論はまだしていなかったと思います。今、この内容が出て論議されていますけれども、ライフステージに合った形での表をつくるかどうか。つくるという前提でいいのでしょうか。この内容について今、原嶋副議長からお話がありましたが、これはつくるという前提で作業を進めるということでもいいのですか。それとも、この表は要りませんか。つくるという方向で今、皆さんはお話されていると思います。それで確認しておきたいと思います。

(清水委員)

そうすると、そういうこともいいですね。議長の言われたのはいいと思うのですが。省くと1ページ減るわけですね。

(中村議長)

ただ、大事な点だと皆さんが認識されるのであれば、それは盛り込まないといけな

い。ライフステージについては、清水委員のほうから御提案を。

(石原生涯学習課長)

ちなみに、ライフステージ別による区分は一例としてです。

(中村議長)

一例とおっしゃるのは何の一例ですか。

(石原生涯学習課長)

ここに出ているのは、全てではなく、例示としてお示ししたものですということです。

(中村議長)

今、石原課長が持っておられるのは。

(石原生涯学習課長)

これは第1次生涯学習推進計画です。

(樹委員)

これは、結局、小金井独自のものというのではなくて、社会教育の、生涯学習の考え方という、そういう流れでこうですねということですね。

なので、こういう例ですよとお示しするために載せるのであれば、深く検討することはない。生涯学習として何か出版されているとか、提示されているものを載せるのであればあれですし、ただ、それだったらあえて載せなくてもいいのかなというようにも思うし、もう少し、小金井がやっている生涯学習とリンクさせて、ちょっと難しいことにはなるかもしれないのですけれども、こういう年代の人たちにはこういう施策がありますよみたいなものが示せるのであれば、私はライフステージを載せていく意味もあるのではないかなと思うのですが、一般論として同じものを続けて載せていくのであれば、別に要らないのではないかなと思いますし、清水委員がおっしゃっていることでいえば、小金井の施策とライフステージをしっかりとリンクさせて、こういう年代の人たちには、小金井はこういう施策をやっていますよというようなことが示せたほうがいいのかと私は感じているのですが。

(中村議長)

清水委員、いかがですか。小金井版の事業を落とし込んだものをつくりたいというお話。

(清水委員)

それよりもむしろ、小金井の施策は偏っていないか。どこかに漏れがないかを検証する一段階だと思うのです。実際問題、成人期、壮年期、高齢期全部にわたって該当するような施策もあるはずなので、生涯学習ということで、生涯のサポートをしていく、全体を見ていくという観点が欠けてしまうと柱立てだけで進んでしまう。どこかのライフステージに重心がかかり過ぎることにならないかなという、そのような気が

あって、以前つくった、ライフステージについてこのような課題があるかなと、これは小金井がやっているやっていないではなくて、私としてこういう時期にはこのようなことが必要なのではないかというものを実はまとめたわけですね。それと柱立てとどう結びつくのかなというものを整理したいという気も私の中であるのです。実際、小金井でやっている施策もそういう観点から見たらどういう位置づけになるのかなというものを整理してみて、非常に多分わかりにくい結果になってしまうから、最終的にはそれは考える手段として、途中ではやったにしても、最終報告書には載せないほうがいいのかもしれないという気がしています。意味合いはそういう意味合いなのですね。今ある施策を必ずライフステージにリンクさせようという、そういう意図があつてというよりは、むしろライフステージという観点から施策を見たら、どういうように広がっているのだろうと。見落としが無いのですかというのをチェックする手段かなと。そのような意味合いなのですね。

(中村議長)

なるほど。それはメインではないということの理解でいいですか。漏れないようにしようという考え方の問題提起ですね。

(清水委員)

柱という形で4つ、今、挙がったテーマで、それに基づいて問題点を整理するというのの一つですね。もう一つの視点としてライフステージで見たらどうなるのだろうという視点も持っておいたほうが多分、課題の整理が割としやすいのではないかなと思います。だから、そういう視点として、ライフステージのことも頭に置いておかないと、柱立てだけで考えていくと漏れてしまわないかなという気がしています。それで、ライフステージごとに必要な大きな課題は何かというものを前回、私がつくった資料で若干、自分なりの見解でまとめてみた。それは多分、皆さんいろいろな意見があると思うのです。

(本多委員)

ちょっとわからないことでお聞きしたいのですけれども、施策の18ページからずっとある中に「ライフステージ／対象」という欄が一つずつ全部入っていますね。これはどういう意味ですか。ちょっとわからなくて聞いているのですが。これがさっきのことにつながっているのですね。そうすると、今のお話がまたもとに戻る形ですね。

(清水委員)

確かにそういう整理をされているのですね。おっしゃるとおりです。

(小山田委員)

私は清水委員の最終的な意見に賛成というか、掲載するとかは関係なくとも、自分たちが整理してみる上で、ライフステージの課題をどう考えるということと、4つの柱にライフステージでマトリックスをつくってみて、どう分類ができるのかも資料と

して整理する上でやってみてもいいのではないかとはい思います。それを掲載するとかはまた置いておいてという、自分たちの中の整理の一つとしてそういった作業をやってみてもいいのではないかとはい思います。

(原嶋副議長)

確認すると、きょうの話し合いのまとめまでは行きませんが、この4つの柱が1つのたたき台で、決定事項ではない。これはいいですね。それと、今、清水委員のおっしゃったライフステージをどこかに意識して入れられたほうがいいのではないかとはいするようなこと、あるいは心のこと。いろいろな発言があったものを頭の中に入れながら項目立てていく。でき上がったものはどうやら2次と大して違わないとかというものが出てくると思うのです。それはそれとして、とにかくこれをつくってみようということで、今度は項目を立てながら、石田さんのつくられたものもひっくるめてね。

(中村議長)

その際に、やり方はいろいろあると思うのです。該当する施策を紙か何かに張って、これはどういうように。これでやったらどうですか。それで分けていくのはどうでしょうか。事務局にちょっとお願いしていいですか。

(石原生涯学習課長)

次の小委員会のときにみんなで。

(中村議長)

石田委員に分けていただいたものがありますね。これを例えば読み返すとか、それを全部つくっていただいて、それが例えばこの4つの柱立てのどこに行くかというように分けていく。その前の段階で、もう一つ大きな上の項目で「施策の体系」というと、もうちょっと大きい概念ですね。そこをどうするかという問題がある。一番末端の事業としては、石田委員に分けていただいたこれですけれども、その前の段階で「施策の体系」という、「子育て家庭への支援」とか、もうちょっと大きい概念。そこをどうするかという問題もある。ただ、最終的に事業仕分けであれば、石田委員のつくられた具体的な、細かな事業に入ってきて、それが4つの柱立てのどこへ行くかというのは、ああだこうだやりながらやっていくのが最終的にはいいのではないかとはい思います。

分けるときによく考えないといけないのが、統一した中で、小金井らしさや地域性が分ける中で、あるいは事業の中に盛り込まれている。それから、清水委員のおっしゃったライフステージで欠けているところはないか。そういったところですね。あるいは小金井のらしさでもありますがけれども、豊かな郷土文化とか、郷土文化の振興、継承者の育成とか、そういうところが入っていく。大事なところで、引き継ぎ事項の生涯学習支援センターの構想が盛り込まれている。そういうところが全部抜け落ちな

いようにして仕分けしていくような感じと考えますけれども、皆さんいかがでしょうか。

(樹委員)

まず、「施策の体系」が16ページの柱の先にありますね。これをそのまま生かしていくとして、新しい柱にどの項目がつくのかというのを検討し、そして、例えば「子育て家庭への支援」であれば、18ページから具体的な施策がずっと出てくるわけではないですか。その施策をここに入れることが正しいかどうか。仕分けする必要があるかということのように検討していく。

(中村議長)

順番としてはそうですね。

(樹委員)

そうしないと、「施策の体系」そのものの項目を、項目立てを変えていこうというのは大変な作業にもなってきますし、項目立てをした上で足りないところは足していく。細かい施策を見ていったときに、例えば全部これは生涯学習とはちょっと違うねとなったときには、上位である項目を削除していくという感じで進めていくということでしょうか。

(中村議長)

個人的にはそれでいいと思います。ですから、今、樹委員からもお話がありましたけれども、第2次の16ページのところに「施策の体系」とありますね。ここの体系のところをもとに考えるかどうか。あるいはこれでカバーし切れていないところがあればもちろん足さないといけないけれども、基本はこれを次の段階としてまず精査して、これでいいかどうかですね。あるいはこれに加えるところがあるかというところをまず、次の段階で論議しないといけないところではないかなと思います。その辺は皆さん、御意見はいかがでしょうか。

これは、全部が全部網羅されているような感じを受けないような気はしますけれどもね。どうなのですか。

(清水委員)

例えば「子育て家庭への支援」という中に、右を見ると施策の細かい内容が6つあるのですが、「子育て家庭への支援」の中でも情報提供というものと、学童保育というものだと、こっちの4つの分類になったら違うところに入るのではないかと思うわけなのです。だから、子育て家庭への支援だけれども、情報提供はもしかしたら環境ネットワークになるかもしれないし、学童保育というと施設のことなので、そちらが環境になるのか、そのあたりがというところまでになると「子育て家庭への支援」という中のものが環境づくりもあるし、人づくりもあるしというようなことを一

回やって、さらに細かいその後の内容をつけることになるのかどうなのかなと思ったのですが。

(原嶋副議長)

進め方なのですけれども、私たちが資料として共通に持っているものが、調布だとかもちろん小金井。施策というものは誰かがたたき台をつくらないと、どうしましょうだと進まないのかな。何でもたたき台になってしまいますが、どなたかがおっしゃったように、これもどこかにいろいろぶち込んでいこう。だとしたら、調布あたりのものも、違う観点だけれども、これはもっといいのではないかと、そういうものを整理して、どなたと、誰がやるかですけれども、たたき台をつくっていかないと、あちこちあちこちで、まとまりがどこで、最初の意見の中で、議事録としてだけれども、ともかくダウンしていかないといけないので、少しずつ決め事やっていると進まないのではないかと思うので、こういう提案です。ですから、今、例えばある程度、これにしようという柱立て。だとしたら、これの施策の対応を当てはめてみよう。この4つの中に、こっちはひょっとしたら、こちらに行くかもしれない。あるいはこれなども参考にして。それを誰かがたたき台をつくって、提案していったほうがいい。小項目立てはその後になっていく。それで進めたらいいのではないかと。ただ、誰かがと。自分で言っておきながら声が小さくなってしまいうけれどもね。

(本多委員)

16 ページで理解できるのは、協働の、こちらで言えば、ネットワークづくりというところだけは、こうやって見ると、落ちついてますね。あとはこの言葉とどうリンクしていくのかなと。施策の柱を基本に考えたほうが早い感じもするように感じてきたのですが。ぐるぐる同じところを回っているような感じです。

見ていますと、この施策の言葉はそれぞれ全部いいですね。言葉からイメージも出てきますし、どうなのでしょう。

(中村議長)

本多委員がおっしゃっているのは「施策の体系」のところですか。

(本多委員)

ここです。ここを動かすということは大変な、基本的なものがもっと動いていってしまうような気がするので、ここに。

(中村議長)

これをベースに考えることでいいのではないかという気もします。

(本多委員)

一つ何かを、2次のときの形はよくできていると思っているのですが。

(石田委員)

言葉の言い方を少し変えるとか、何とかづくりみたいな。こちらにあわせたような、

内容はこれですけれども、文言を考えてもいいのかなと。

(本多委員)

子どもと青少年は包んで、いろいろなものも全部、環境もみんな一固まりになっているほうがわかりいいかなと思って。

すみません、私は話が最初に言ったことと形が変わったかもしれないです。

(中村議長)

第2次でいう「施策の体系」の文言についてはまた正副と石原課長で、よろしいですか。ちょっと素案を考えます。ただ、今後は約1カ月後ですね。それまでにちょっと、早目にたたき台をつくって、今度の6月の会議までにたたき台の完成系を皆さんに配信できるようにさせていただくということではよろしいですか。いわゆる施策の体系のところですね。それがないと論議のしようがないということで。

原嶋副議長、それでよろしいですか。

(原嶋副議長)

はい。

(中村議長)

では、きょうのところはその方向で、次第の1番についてはいいですか。

(2) 社会教育関係団体への補助金交付について

(中村議長)

続きまして、協議事項の(2)社会教育関係団体への補助金交付について、お願いします。

(石原生涯学習課長)

平成27年度社会教育関係団体への補助金交付申請一覧に関する説明でございます。

団体に対しては、補助金を交付しようとする場合、社会教育法に基づきまして、社会教育委員の会議で意見を聴いてから行うことになってございます。平成27年度の団体補助金につきましては、小金井写友会、こがねいロケよび隊、高次脳機能障害者小金井友の会、小金井墨井会、KOKOぷらねっとの5件から申請が出てございます。

詳細につきましては、資料一覧のとおりでございます。

社会教育関係団体補助金交付要綱に基づいて交付するというものでございまして、目的といたしましては、社会教育団体が行う事業の経費の一部を補助するというものでございます。対象となる団体は、さきに行いました社会教育関係団体の登録済みの団体でございまして、団体の要件といたしましては、登録から1年以上の実績、構成員の2分の1以上が市内に在住、在勤または在学の団体でございます。

下段のほうは、社会教育関係団体の補助金ということではございませんが、社会教

育に係る補助金ということで資料としてお示しするものでございまして、PTA連合会と小金井市スカウト協議会について、小金井市補助金等交付規則に基づき、過去数年、毎年度交付しているものでございます。

説明は以上です。

(中村議長)

わかりました。

皆さんのほうから御意見はありますでしょうか。

なければ、皆さん、御異議なしということで、御意見は承りましたということですね。

ありがとうございます。

(3) 地域文庫補助金交付について

(中村議長)

では、協議事項(2)は終わりました、(3)地域文庫補助金交付について、事務局のほうからお願いします。

(上石図書館長)

それでは、協議事項の(3)地域文庫補助金交付について、御説明いたします。

社会教育法第13条で社会教育団体への補助金交付に当たっては、社会教育委員の会議に意見を聞いて行わなければならないとされており、これに基づき、協議をお願いするものです。

図書館では、小金井市地域文庫補助金交付要綱に基づき、読書普及活動の活発化を図るため、図書及び読書に関する研究、調査、相談、講習、その他の活動を行い、地域社会に奉仕する地域文庫に対して補助金を交付しております。なお、補助金交付対象となっている小金井市子ども文庫サークル連絡会は、地域で活動している文庫サークル7団体で構成されています。今年度につきましては「子どもと本を結ぶ」という事業に対して交付するもので、金額は3万円になっております。

資料として、小金井市地域文庫補助金交付要綱をおつけしておりますので、ごらんください。

説明は以上になります。

(中村議長)

ありがとうございます。

これについて皆さんから御意見はございますか。

お願いします。

(石田委員)

これは毎年3万円ぐらいなのでしょうか。

(上石図書館長)

予算で3万円という交付額があります。昨年度、やはり3万円を交付しておりまして、どのような活動をされたかという、ちょっと御紹介いたします。手ぶくろ人形の講習会、講演会、大人が楽しむおはなし会、たのしいおはなしフェスティバル等、こういった事業をされていまして、事業報告としては、8万302円の事業でした。その中で3万円をこちらのほうから補助金として出しております。この3万円という額はずっと変わっておりません。

(4) その他

(石原生涯学習課長)

前回の会議でお答えできなかった長期計画の進展状況ですが、起草委員会が2回ほど開催され、その中で生涯学習に関することでは、オリンピック関連や国際交流事業を進めるべき、戦争の史跡に光を当てるべき、中央図書館の整備、地域センターの老朽化や防音施設の整備、留学生の活躍の場、小学生が生涯学習に触れ合える環境の整備、チャレンジデーの発展、指導者育成などが意見として出され、この意見をどうブラッシュアップするか、起草委員会で検討することとなっています。

2 報告事項

(1) 第20回ウオーキングフェスタ東京ツデーマーチについて

(石原生涯学習課長)

5月2日、3日に小金井公園で行われましたウオーキングフェスタツデーマーチについて報告します。2日間合計で7,589名の参加がありましたが、昨年より800名減でした。好天に恵まれ、中学生ボランティアも76名の生徒が参加し、参加証の交付やスタンプ押しなどを行いました。

(2) 小金井チャレンジデー2015について

(原嶋副議長)

5月27日にチャレンジデーが行われます。具体的には霧島市と対抗して15分運動をした人数を競うことになる。ご自身だけでなくご家族も巻き込んでいただけると助かります。チャレンジデーの参加登録表は、大きな団体など事前に登録申請をお願いします。

(3) 平成27年度都市社連協の日程について

(石原生涯学習課長)

今年度は役員に当たっていませんので、別紙のと通りの日程で参加をお願いいたし

ます。

(4) その他

(石原生涯学習課長)

まとめとしては、4つの柱について現時点で承認が行われました。今後について施策の体系については4つの柱と結びつける作業を事務局と議長副議長とで行うこととします。

以上